



ファーニング スピンパールカイト 「Ferning と Spinnbarkeit」

名誉院長 西 田 敬

英語と獨逸語の混淆は典型的な我国の医学用語。羊齒状結晶と牽糸性と読解する。英語と獨逸語、接続詞はandかundか、迷ったが結局、日本語の「と」で繋いだ。共に子宮頸管粘液の検査で使用する用語。何が哀しくてそんな酔狂な検査を思い立った？ 譬えば春先に見られる雌猫の狂騒、猿の場合は御存知、臀部の発赤腫脹が増強、動物の発情や排卵は in hot と云って、進化の帝王、如何な靈長類と雖も傍目に分る。処が、ヒトでは如何か？ loss of estrus (発情の喪失) とか concealed ovulation (隠された排卵日) と云って金輪際、外見からは判らない。何とか青天白日の下、客観性の高い判断法は無いものか。人類の存続の為にも好都合に相違ない。

颯爽と登場するのが子宮頸癌検診の立役者、Papanicolaou GN。ソクラテスやピタゴラスなど歴史的な英傑にも比肩し得る、最も高名なギリシャ人。偶然にも発見した

子宮頸部の異型細胞の整理に現を抜かす前の、真面目で基礎的な婦人科生理学者の時代。月経周期の中間日に頸管粘液が増量したり、粘稠度が増す事に着目。剰え、プレパラートガラス上で自然乾燥させて羊齒状結晶が析出する事にも着目。人間でも排卵日の判定法が判った！これで、春先に女性の遠吠えを聞かすとも良い。「Eureka: ユリーカ」一声叫んで浴槽から跳出し、先人に倣って、裸で街中を走り廻ったか如何だか。処で、検査室で黄体化ホルモン

(luteinizing hormone) の突出的上昇 (LH surge) を特定できる迄は、頸管粘液からの情報は、唯一の飽く迄も、客観的な排卵日判定法として基礎婦人科学の教科書に記載されていた事実。

「落ち着けば一人前だから、落ち着いて遣るんですよ」女房殿の小言。冗談じゃねえや、世の中に半人前なんて人間が居るのか！御存知、「粗忽の釘」の一節。然し、半人前が居るのである。精子や卵子などの配偶子は接合して一人前の半数体、haploid である。唯でさえ染色体数が半分の異物扱い、まるで異星人 (Alien) の如く免疫機構から目の敵。加之に周囲は膺の自浄作用に因る酸性環境。酸性に馴染めない精子の運命や如何に。まるで乃木大将配下の決死隊のような旧日本兵、二〇三高地に曝す累々たる屍の山。救いの神は居ないのか。満を持して控えて居た、増量した弱アルカリ性の頸管粘液。逃げ込めれば2日間は受精能力を維持できる。斯くして人類の生命の輪は繋がり、絶滅を免れる。

